

2023年9月8日

報道関係者 各位

世界初となる炎症性腸疾患における新規治療法の開発 ～アミノ酸由来止血材の新効能評価のための特定臨床研究開始～

群馬大学医学部附属病院（群馬県前橋市）は、炎症性腸疾患の新たな治療方法として、アミノ酸を原料とした吸収性局所止血材による治療を世界で初めて実施する。



吸収性局所止血材『ピュアスタット』（株式会社スリー・ディー・マトリックス社提供）

1. 本件のポイント

- 世界初となる炎症性腸疾患の新規治療法の開始
- 適用拡大に向けた特定臨床研究の開始
- アミノ酸由来の安全性の高い止血および組織修復作用に着目

2. 本件の概要

潰瘍性大腸炎は日本国内では難病に指定されている大腸に発生する難治性炎症性疾患である。本邦の患者数は推定 22 万人で患者数は年々増加の一途をたどっている。主な症状は下痢や血便で QOL を大きく低下させる。若年者にも多く発症する疾患であり、多くの患者は生涯にわたり薬による治療の継続が必要とされる。基本的な治療法は薬の内服や注射であるが、症状が良くなったり、悪くなったりを繰り返す疾患である。

今回、群馬大学の浦岡俊夫教授が考案した新規治療法は既に消化器内視鏡治療中の出血を止めるために使用されている吸収性局所止血材（製品名：ピュアスタット）を応用した治療法である。ピュアスタットは生体内に存在するアミノ酸を原料とした止血材であり、浦岡教授と株式会社スリー・ディー・マトリックスが開発を進め、日本では厚生労働省の薬事承認を取得し、2021年12月より保険償還品として同社が販売している。欧米においても使用され全世界で累計約8万本が使用されている。

ピュアスタットは臓器を構成する細胞が成長するために必要な細胞外マトリックスに類似した構造をしており、**癌切除後の障害を受けた組織に塗布することにより障害部位の治癒を促進する効果が臨床研究より示唆されている**。炎症性腸疾患の動物モデルにおいても有効性が示唆されたことから、今回特定臨床研究として有効性と安全性を検証する。

潰瘍性大腸炎の治療では複数の薬が組み合わせて使用されているが、局所での組織修復を促進させる薬はないため、今回の治療方法で有効性と安全性が確認できれば、潰瘍性大腸炎の患者にとっては大きな福音となる。

今週、第一例目に投与開始されており、有効性に期待がかかる。次週には第二例目にも予定されている。

3. 関連リンク

群馬大学

<https://www.gunma-u.ac.jp/>

群馬大学医学系研究科

<https://www.med.gunma-u.ac.jp/>

株式会社スリー・ディー・マトリックス

<https://www.3d-matrix.co.jp/>

【本件に関するお問合せ先】

群馬大学大学院医学系研究科 消化器・肝臓内科学 教授 浦岡 俊夫（うらおか としお）
医学博士 橋本 悠（はしもと ゆう）

【取材に関するお問合せ先】

群馬大学昭和地区事務部総務課法規・広報係

TEL：027-220-7895 FAX：027-220-7720

E-MAIL：m-koho@jimu.gunma-u.ac.jp